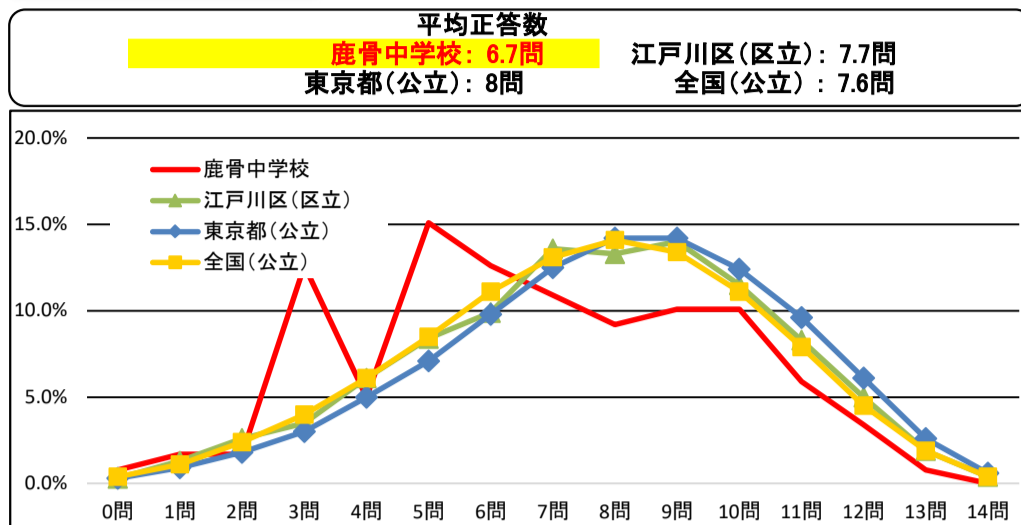


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立鹿骨中学校

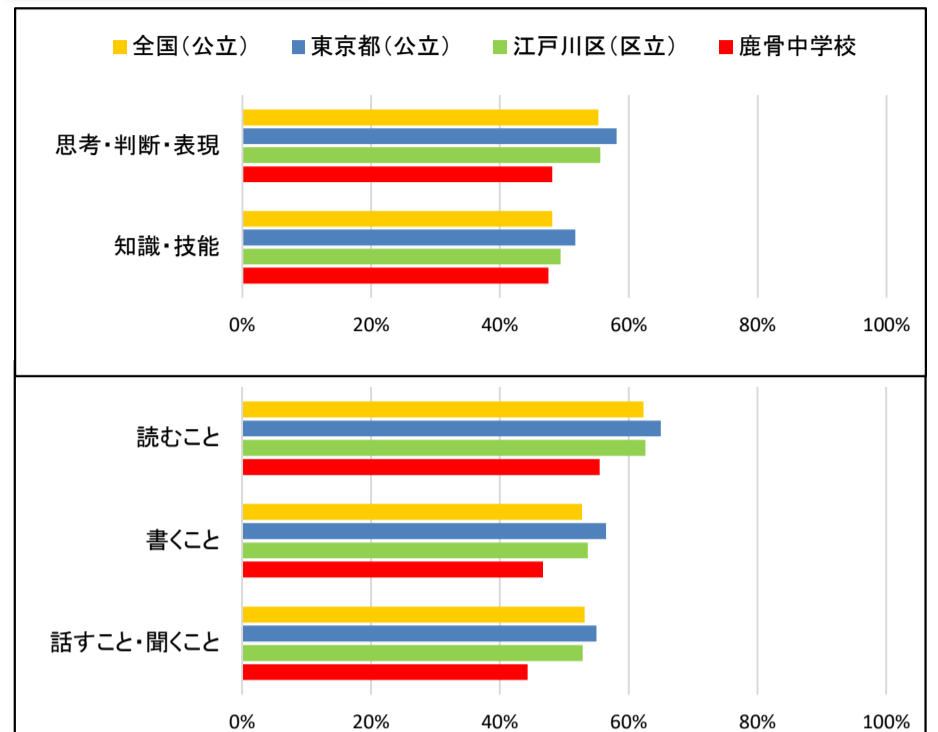
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

鹿骨中学校	48%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-9.0

「領域別」の結果

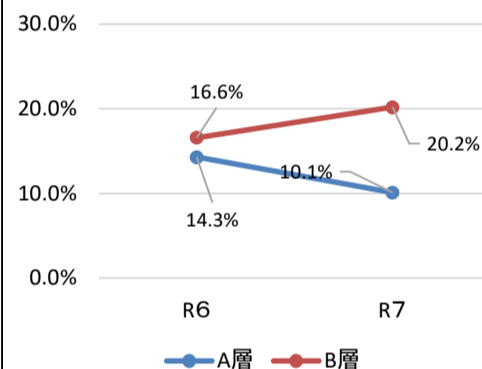


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

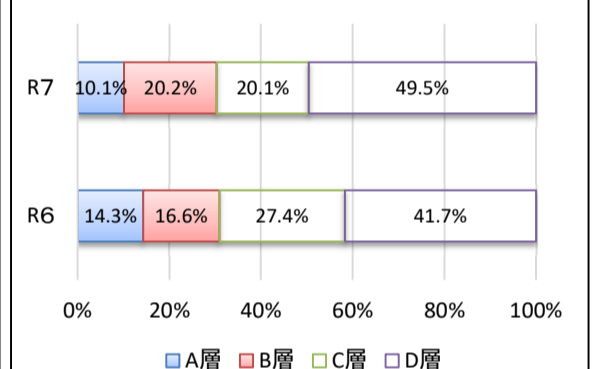
国 語	上位 A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	下位 D層 0～5問
	10.1%	20.2%	20.1%	49.5%
鹿骨中学校				
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

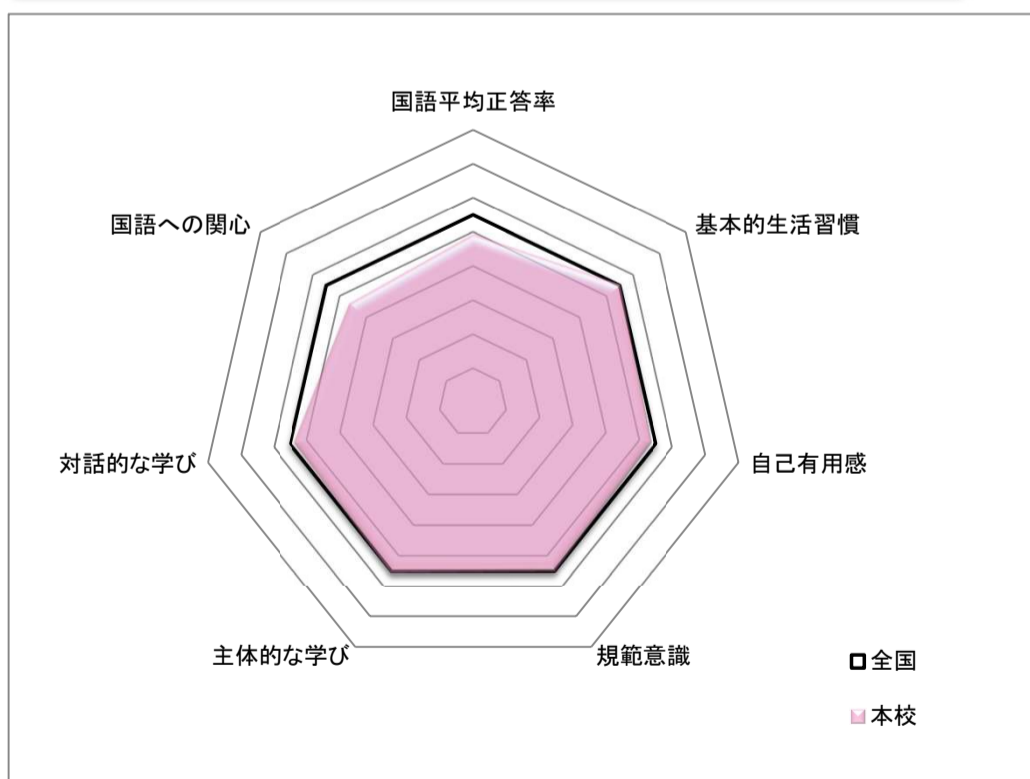
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

国語への関心・平均の正答率では、都平均を下回った。それ以外の基本的な生活習慣・自己有用感・規範意識・主体的な学び・対話的な学びでは全国平均とほぼ同じである。

《家庭・地域への働きかけ》

授業の振り返りを徹底して学力の定着を図りたいと考えております。家庭学習での振り返り等の定着を図ることにご協力ください。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層が10.1%、B層が20.2%となっているため、基礎基本の定着を重点的に行っている状況である。知識・技能において、全国平均に対して-0.6%となっているが、思考表現は-7.2%と大きく下回っている。また、読むことでは-6.8%、書くことでは-6.1%であったが、話すこと・聞くことでは-8.9%と全国平均を大きく下回っている。特に話すこと・聞くことに課題があると考えられる。

・教員の指導力向上

「話すこと・聞くこと」において、話をきちんと聞くことができるよう聞く姿勢づくりの指導について指導力を高めていく。自らの考えを表現させる機会を増やし、その中で相手に伝わりやすくする工夫を指導していく。目的をもって表現したものを、その目的にそって振り返り、表現の向上につなげる。

・基礎学力の保障

基本である読む・書くを重点的に指導し、よむYOMUシートを活用して読解力の育成を図る。読書科の朝読書の充実を図り、読解力につなげていく。また、聞くことにおいて、全国平均を大きく下回ったため、SJS「あじみこし」のし(姿勢)である聞く姿勢づくりを繰り返し指導する。

・学習習慣の確立

漢字の書き取り・ミニ漢字テストなどの取り組みを通じて家庭学習習慣の確立を進めていく。授業内容の振り返りも家庭で行うよう積極的に働きかける。

・AB層の育成

授業中での定着させて、基礎基本で定着させた内容を用いた表現の機会を充実し、思考・表現の力を高めていく取組をする。